

令和 6 年度学校自己評価及び学校関係者評価表

【経営理念】 （１）基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校 （２）地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ学校 （３）道徳的心情や道徳の実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校				評価			【学校運営協議会・会長】小泉 亨 学校運営協議会（学校評価分） 第１回 令和６年 ５月２１日（火） 第２回 令和６年１０月 １日（火） 第３回 令和７年 ２月１４日（金）		
A	十分に達成している。（80%以上）								
B	概ね達成している。（60%以上）								
C	あまり十分でない。（40%以上）								

項目	計画・取組			自己評価（令和７年２月１４日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（％）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	① 生徒の基礎学力の定着 ② 教師の授業力の向上	① 全ての教科、単元において他者との対話的な学びの場を取り入れる。 ① 夏休み補習教室の実施。第三学年を対象とした地域未来塾に新たに実力アップ講座を開講。	【全校共通】市学力調査にて、（小５・中２）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小４・中１時）を上回っている。	80	A	正答率は国語数学共に 50％程度であり、前年度に比べ、国語は 0.01％、数学は 0.04％下がった。しかし、全国平均を 50 としたときの本校平均の値を比べると国語と数学共に 0.3 上昇していることからわずかではあるが学力が向上しているといえる。	朝学習を充実させて基礎・基本の定着を徹底する。第三学年を対象とした地域未来塾では、年度途中での登録を認めるなど意欲のある生徒がより学習の機会が得られるようにする。	基礎学力向上に向けた種々の施策で学力向上への生徒の意識が上がっていると感じる。数値的には向上の余地は大きく継続した取り組みをお願いする。	B
		② 全教員が学習の内容やねらいに応じて ICT を活用する。 ② ICT 支援員や研究主任による研修を学期に１回以上実施。	② 学校評価の授業の分かりやすさに関する質問項目で肯定的に捉える生徒を 80％以上	97	A	学校評価の授業の分かりやすさについて 77.7％の生徒が肯定的に捉えていた。昨年度より 1.6％上昇した。また、まったく思わなと答えた生徒が昨年度より 0.3％減った。	ICT 機器を活用する教員が増えたことで視覚的に分かりやすい授業につながった。一方で、３％の生徒が分かりにくいと感じているので個に応じた指導や個別指導の在り方を充実させる。	公開授業などで ICT 活用が進んでいることが実感できる。活用レベルには差異が見られ一層の ICT リテラシー向上を望む。	A
豊かな心の育成	① いじめの撲滅 ② 生徒の規範意識の醸成	① 年１回以上、いじめについて考えたり取り組んだりする活動を実施。 ① 『人権教育プログラム』を活用した授業の実施。教員への研修の実施。	学校評価の学校生活、生き方、悩みが生じたときの対応に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 90％以上	69	B	相談のしやすさについて生徒は 66.2％、保護者は 65％が肯定的に捉えていた。昨年度より生徒は 4％、保護者は 6.4％低下した。業務量の多さのため教職員につながりにくいことや相談希望者の増加により SC の予約が取りにくくなったことも原因の一つと考えられる。	業務の効率化を図り、教職員が生徒や保護者に向き合える時間を増やすよう努める。また、SC の来室日が増えるように関係機関に要望し、より相談がしやすい環境づくりに努める。	SNS 問題や不登校などでは顕在化していない問題もあり、相談への要求は強い。教職員数の拡大も含めた対応する体制の強化をお願いする。	B
		② キャリア教育や進路指導の中で礼儀作法について学ぶ場を設定。 ② 校区の小学校と連携したあいさつ運動を各学期で実施。	学校評価の挨拶や自治的活動、生き方に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を 90％以上	84	A	挨拶や自治活動、生き方の学習に関して生徒は 93％が肯定的に捉えているが、保護者は 76％と認識のズレが大きかった。学校の内外で生徒の行動が異なっているものと思われる。	学校外でも挨拶や集団の中でより良い人間関係を自主的、実践的に形成できるよう道徳を中心に指導の充実を図る。また、家庭に学習の様子が伝わるよう発信していく。	各種の委員会活動や行事の実行委員等を通してリーダーシップや規範意識の向上が図れている。	A
健やかな体の育	生涯スポーツにつながる体育科の授業の充実	珍しいスポーツ（ラート）を体験する機会を設けたり、市民駅伝競走大会と体育科の持久走を関連させたりするなどカリキュラムマネジメントに取り組み、生徒の運動に対する意欲を高める。 2 種目以上の競技で専門家を講師に招いた体育の授業の実施。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小５・中２）において総合評価「C」以上の割合が60％以上又は総合評価「C」以上の割合が令和５年度調査との比較で向上している。 学校評価の運動やスポーツに関する質問項目で肯定的に捉える生徒70％以上	100	A	調査結果は 80.4％で目標値を大幅に超えた。昨年度と比べても C 以上の割合が 4.1％向上している。また、学校評価においても 70.2％の生徒が肯定的に捉えている。武蔵村山市市民駅伝競走大会につなげられるように長距離走を扱う時期を工夫したり、専門家を講師に招いた授業を実施したりしたことで生徒の運動への意欲が高まり、その結果体力の向上に結び付いた。	次年度も引き続き体力向上及び運動に対する意欲を高める取組を進める。体力テストの D や E 層の割合を減らすなど底上げを意識した指導を検討する。	適切にマネジメントされたタイムリーな授業の実施で生徒のスポーツへの関心を高められている。継続的にやっていくことが体力向上に重要と考える。	A
まちづくり学習の充実	① 総合的な学習の時間の充実 ② 地域への愛郷心がある生徒の育成	① 学校のテーマ「自らの生き方を考える」と学年のサブテーマ「村山とともに生きる」（一年）「村山から外へ」（二年）「未来へ向かって」（三年）を関連させた授業の実施	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70％以上	85	A	肯定的に捉えている生徒は62％だった。各学年川越、都内、修学旅行などの行事とまちづくり学習を関連させて調べ学習の機会を多く設けたことがこの結果につながったと思われる。	まちづくり学習の学習計画を大幅に見直し、市教委を通じて地域の企業や公的機関等と連携を図り、武蔵村山市に焦点を当てて自分なりに課題を見出し、課題解決学習に取り組むことができるようにする。	学校側から発信されるまちづくり連携の話が確実に増えてきていて、生徒の武蔵村山への関心度アップを期待したい。	A
		② 教科の学習や行事等において地域の人的資源を活用した活動の実施。クリーン作戦やさくら祭りなど地域の行事への生徒の参加。	学校評価の地元へ愛着に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を70％以上	100	A	肯定的に捉えている生徒、保護者がともに 71％程度だった。昨年度に比べてどちらも10％程度上昇した。市の施策であるまちづくり学習と関連させたことも効果的であった。	まちづくり学習の学習計画を大幅に見直し、年間を通じて学習を展開することでより地域に愛着をもてるようにする。	一方で地域の側の受け止める力の低下が感じられる。市の施策、他の市民団体との連携を改善するよう努力したい。	A
学校裁量	① 家庭学習の定着 ② 開かれた学校の推進	① 検定（英検・漢検等）や定期考査（年間5回）実施することで、短期の目標を持ちやすくするとともに、学習計画表等の作成指導を徹底する。	①学校評価の家庭学習の習慣に関する質問項目で肯定的に捉える保護者・生徒を80％以上	79	B	家庭学習の習慣について肯定的に捉えている生徒は63.5％、保護者は48.5％だった。昨年度肯定的に捉えている生徒が 57.3％、保護者が 38.1％だったことを鑑みると十分とはいえないものの着実に家庭学習が身に付きつつある。	家庭学習の習慣の定着は保護者の協力なくしては成立しない。学校でも適宜、課題を出しつつ保護者にも積極的にお子さんに関わっていただく機会を設けていく。	家庭学習の習慣をつけた生徒はその成果を実感している。きっかけ作りが重要であり、学校、保護者の連携で積極的に進めて欲しい。	B
		② tetoru や X（旧 Twitter）を活用した情報配信の強化。	② 月に1回以上配信する。学校評価で保護者による各項目の「分からない」を20％以下						